

新たな燈火

(昭和五十二年寮歌)

石川徹君 作歌
元辻毅君 作曲

一

北^{きた}国^{くに}の荒^{すさ}ぶ吹^ふ雪^{ぶき}に
楡^{にれ}の木^きの高^{たか}く聳^{そび}える
原始^も林^りの中^{なか}果^はてる事^{こと}なく
雄^お々^おしくて人^{ひと}の臉^{まぶた}に
何^い時^つ迄^{まで}も鮮^{あざ}やかに刻^{きざ}む
其^その姿^{すがた}を恵^{けい}迪^{いて}寮^{きりよう}は

二

憂^{ゆう}愁^{しゆう}と理^り想^{そう}を胸^{むね}に
爽^{さわ}やかに寮^{さう}友^{とも}は去^さり行^{ゆく}く
夜^よを徹^{とお}し未^み来^{らい}の事^{こと}を
御^お互^{たがい}に語^{かた}つた部^へ屋^やに
思^{おも}出^{いで}の言^{こと}葉^はを残^{のこ}し
懐^{なつ}かしい恵^{けい}迪^{いて}寮^{きりよう}を

三

年^{とし}月^{つき}に傾^{かたぶ}く姿^{すがた}
痛^{いた}ましく懐^{おも}いの残^{のこ}る
部^へ屋^やの壁^{かべ}崩^{くず}れ落^おちて
昔^{むかし}から点^{とも}る燈^{とも}火^{しび}
今^{いま}はもう細^{ほそ}くなり行^{ゆく}く
我^{われ}々^{われ}の恵^{けい}迪^{いて}寮^{きりよう}を

四

先^{せん}人^{じん}の残^{のこ}した燈^{とも}火^{しび}
心^{こころ}有^ある寮^{さう}友^{とも}よ絶^たやさず
思^{おも}い見^みて新^{あらた}な燈^{とも}火^{しび}
今^{いま}こそ探^{さが}し求^{もと}めて
点^{とも}そう絶^たやす事^{こと}なく
何^い時^つ迄^{まで}も恵^{けい}迪^{いて}寮^{きりよう}に